



奥出雲町の景気はどうか

藤原充博 議員

町長 本心に厳しい状況と考えている



問 町の景気の現状を、どのように捉えているか。

答 建設業は公共事業の減少で本心に厳しい状況だ。農業の平成27年度は若干の米価の値上がりで所得は少し持ち直している。商工会の景気動向調査報告では、製造業とサービス業がやや悪化、小売業と建設業が悪化で、本心に厳しい状況である。

問 何かにつけ町からは財政が厳しい、お金がないという話が出てくる。健全化の判断比率を改善するのを主題にして事業をしないのはどうかと思う。今後の対応は。

答 役場の決算の中身だけを重要視してはいない。事業の推進も図って、町の活性化をやるべきと思う。

う。「役場宋えて地域減じる」という謬もある。しっかりと対応していきたい。短期的には個人消費を喚起して町内経済の活性化を推進する必要がある。長期的には、経営改善普及事業や地域商業活性化支援事業等を継続実施し商工会とも適切な地域経済対策に努めていく。

問 小さな拠点づくり、地域運営自主組織の立ち上げは、いつから何をどのような方法で取り組むのか。

答 最優先の課題は、地区ごとに異なる認識している。県からのアドバイスや先進的な取り組み方法を研究しながら進めていく考えた。

問 行政はどんな支援をするのか。役割分担は。

答 公民館エリアを基本とし、行政主導ではなく住民の話し合いを通して、生活機能生活交通の確保、

地域産業の振興に取り組みたい。住民が認識している課題を行政と力を合わせて解決していくことからスタートになる。

問 課題の取りまとめの支援を最初にし、状況により県の制度を活用した人員配置支援なども考えていく予定である。

問 小さな拠点づくりで公民館の役割は。

答 小学校区を基本に公民館を地区の拠点とする。職員配置から見直し、地域運営組織を主とするが検討の必要がある。各地区の課題を洗い出しながら今後決めたい。

問 公民館のなかには阿井が昭和46年、布勢が昭和48年、亀高が昭和61年の建築と古く、バリアフリーや耐震化にも問題がある。小さな拠点づくりの中心となる公民館等の整備は。

答 公民館が拠点となれば、老朽化が進んでいる施設



小さな拠点づくりの中心となる公民館（阿井公民館）

については公共施設の適正配置など、今後のあり方を検討する。

問 住民自主組織と現在の自治会長会との役割分担はどうなるか。

答 住民自主組織は、地域で暮らす人々を中心となって形成された地域内の様々な関係主体が参加する共同組織と定義されている。

構成や運営方法は地域の状況によっては、自治会長会を発展させて対応する可能性もある。住民自主組織と自治会長との役割分担は明確できない。